

中部地方整備局事業評価監視委員会（平成 27 年度第 1 回）

議 事 概 要

1. 日 時 平成 27 年 6 月 25 日（木） 10：00～11：00
2. 場 所 KKR ホテル名古屋 3 階蘭の間
3. 出席者
 - 事業評価監視委員
八嶋委員長、大野副委員長、柄谷委員、葛葉委員、雑賀委員、
中野委員、中村（英）委員、森委員、大久保委員
 - 中部地方整備局
八鍬局長、海野副局長、谷脇副局長、総務部長、企画部長、建政部長、
河川部長、道路部長、港湾空港部長、営繕部長、用地部長
4. 議事
 - 1) 対象事業の説明・審議
(再評価)
【河川事業】
天竜川直轄河川改修事業
矢作川直轄河川改修事業
天竜川ダム再編事業
三峰川総合開発事業
木曾川水系直轄砂防事業
新丸山ダム建設事業
 - 2) 報告
(事後評価)
【河川事業】
横山ダム再開発事業
5. 配布資料
 - ・委員会開催資料（議事次第、配付資料一覧、委員出席者名簿、配席図）
 - ・資料 1 再評価に係る県知事等意見
 - ・資料 2 - 1 対応方針一覧表
 - ・資料 2 - 2 一括審議案件に対する意見等について
 - ・資料 3 平成 27 年度の審議の進め方
 - ・資料 4 天竜川直轄河川改修事業 説明資料
 - ・資料 5 矢作川直轄河川改修事業 説明資料
 - ・資料 6 天竜川ダム再編事業 説明資料
 - ・資料 7 三峰川総合開発事業 説明資料
 - ・資料 8 木曾川水系直轄砂防事業 説明資料
 - ・資料 9 新丸山ダム建設事業 説明資料

- ・資料 1 0 横山ダム再開発事業 説明資料
- ・資料 1 1 再評価に係る資料【河川事業】
- ・資料 1 2 報告に係る資料【河川事業】

6. 主な審議結果等

1) 再評価対応方針（原案）については以下のとおりとする。

【河川事業】

天竜川直轄河川改修事業	・・・・・・・・了承
矢作川直轄河川改修事業	・・・・・・・・了承
天竜川ダム再編事業	・・・・・・・・了承
三峰川総合開発事業	・・・・・・・・了承
木曾川水系直轄砂防事業	・・・・・・・・了承
新丸山ダム建設事業	・・・・・・・・了承

2) 委員より出された意見・質問及び回答

項目	意見質問	回答
<p>(一括審議) ○天竜川直轄河川改修事業 ○矢作川直轄河川改修事業 ○天竜川ダム再編事業 ○三峰川総合開発事業 ○木曾川水系直轄砂防事業</p>	<p>意見なし</p>	
<p>○新丸山ダム建設事業</p>	<p>基本計画の嵩上げ高さを4.1m低くして、不特定容量1500万m³/s予備放流することで確保した洪水調整容量7200万m³/sを用いる計画は、気象の予測精度に大きく影響すると思われるが、何か技術的に進捗があった点があれば教えて頂きたい。</p> <p>また、ダム操作についても前回評価時から検討が進んだ点があったら、教えて頂きたい。 予備放流方式は、予測通りいかない点もあるので、引き続き検討を進めて頂きたい。</p>	<p>気象予測につきましては、中部地方整備局とは別の所管となりますが、技術の進歩によって今後も予測精度の向上が期待できるものとして、引き続き洪水予測の精度向上について検討していきます。</p> <p>予備放流方式を含めたダム操作方法について、新丸山ダムの立地条件等を踏まえ、引き続き検討していきます。</p>
	<p>人的被害・社会機能低下の被害の指標について説明があったが、今後河川事業に限らずこういった視点について説明がなされるのか。 今後、道路の防災事業などB/Cが1.0を下回る可能性がある事業などに、このような視点をいれないと事業の存続が厳しい事になる事を踏まえ、直接被害だけでなく貨幣換算できない指標を事業評価の説明の中で付加していくのか。</p> <p>コスト削減について代替道路の歩道を無くす事とされていますが、道路管理者となる岐阜県とは調整されているのか。</p>	<p>河川、ダム、砂防、海岸の事業については、貨幣価値換算できないものについて、平成25年に試行版のマニュアルが出され事業評価監視委員会の中で参考に説明する事としています。今後の本格運用に向けて、本省において結果を集計・分析している状況です。</p> <p>岐阜県と調整のうえ付替道路の整備内容を定めています。</p>
	<p>5ページに平成39年のリニア中央新幹線の開通に伴い地域開発や市街化が進む事が予想されると記載されているが、新丸山ダムの整備とどういった関係があるのか。</p>	<p>新丸山ダムの受益地となる濃尾平野における地域の開発環境の動向について説明しているものです。 新丸山ダム周辺においては、付替道路の国道418号が延伸される事により、東西のネットワークが出来ることで交流の促進が見込まれます。</p>
	<p>【意見】 今後工事を進めていく中で「予備放流方式を採用する」という事を流域住民へ周知徹底する事が重要。</p>	

<p>(報告) ○横山ダム再 開発事業</p>	<p>参考資料8の平成26年8月11日の台風11号の洪水について、横山ダムと徳山ダムの連携について一般国民は理解しているか。広報を聞いたり知ったり人がどう感じとったか、検証はしているか。</p>	<p>効果の大きさについて記者発表を行い、一部記者に取り上げて頂いています。また揖斐川流域の自治体の首長、住民に説明をしております。またある自治体の首長におかれては本効果に感銘を受け、ホームページのコラムに触れて頂いております。1年経ってじわじわPRの効果が浸透していると考えています。</p>
	<p>再開発事業とはどういった事業か。</p>	<p>貯砂ダム2基の設置と堆積土砂の掘削です。</p>
	<p>貯砂ダムについてライフサイクルコストを考えた場合に、何が最適か検討はしているか。</p>	<p>検討した結果、貯砂ダムが最も安価であると考えている。</p>
<p>【意見】 事後評価において新聞の記事も載せているが、進捗しているところを周辺住民に伝えたり、学びあったりした事例があればアピールしてほしい。 受益者である国民と事業を実施した国がともに働いて、ともに喜ぶのが広報の一番良い姿。</p>		